



## 『先生、シロアリが空に向かってトンネルを作っています! 【鳥取環境大学】の森の人間動物行動学』

小林朋道 著

築地書館 刊

定価 1,760円 (本体1,600円+税)

鳥取環境大学で動物行動学を研究する著者のシリーズ本最新刊だ。様々な生き物の驚きの生態や行動とその理由や意味を綴ってきた著者が、本書ではニホンモモンガやヒバリ、ユビナガコウモリ、ヤギ、ブチサンショウウオ、果ては同大学の野球部員や環境学部生の姿までユーモアたっぷりに描いている。

ティッシュペーパーでヤマトシロアリの餌場を作った著者は、餌場をめざして木屑で蟻道といわれるトンネルを作るシロアリの動きを追う。シロアリたちは木屑トンネルを天に向けて伸ばしさえする。その力強い行動特性が本のタイトルになった。トンネル道の成形行動をシロアリが仲間の道標として分泌するフェロモンの揮発と関連づけた仮説に引き込まれた。これまでシロアリがどのような生存戦略や生態系の中での役割を持っているかなど考えたこともなかった。著者のシロアリ解説を読む

と、そのミクロな行動には地球全体に通じるマクロな活動が凝縮されていると理解できる。

著者の髪の毛の中にひまわりやカボチャの種を隠そうとしたシベリアシマリス、生まれて初めて聞いたフクロウの声を天敵と認識できたニホンモモンガの子ども、餌場探しでリーダーの資質を発揮する老いたヤギなど、個性豊かな生き物たちの行動の理由が次々に紐解かれる。サービス精神たっぷりの著者は冗談もふんだんに織り込んでいて、読み進めていくと著者と友達になった気にさえさせてくれるのだ。論文発表の経緯や研究者としてのキャリア形成の道程を垣間見させてくれるのも興味深い。

全編を通して伝わるのは研究の楽しさと生物への愛だ。そして、生物へのあたたかなまなざしに満ちた本書は命の本質を射貫き、次世代に受け継がれる遺伝子の価値を問う。今度の週末は近隣の里山でフィールドワークに参加してみようか。そんな思いに駆られる一冊だ。

(日本農業新聞 齋藤 花)